

花壇づくりのヒント 12か月

10月 球根植物について

花壇に秋から冬、春にかけて楽しめる花を植える時期になりましたね。花苗に合わせて秋が植付け適期の球根植物（秋植え球根）を植えると、春の花壇がより華やかになります。

今回は球根の基本の植え方と、ちょっとおしゃれな植え方、おすすめの球根植物などをご紹介します。

1. 球根植物とは

球根植物とは、地下の養分を蓄えた肥大化した器官（球根）ができる多年生植物です。暑い時期や寒い時期など、その植物の生育に適さない時期を休眠状態で生き抜き、生育の適期になると再び地上部を伸ばして花を咲かせます。球根自体に蓄えた栄養分で開花するため、比較的簡単に花を楽しめます。

2. 植え時期

(1)秋植え球根 主な種類：チューリップ、クロッカス、ムスカリ、ヒヤシンス、ランタナ など
植付け適期は 10 月から 11 月。夏に雨が少ない地域に自生し、暑くなると葉が枯れ休眠するものが多い。翌年も花を楽しみたい場合は春の開花後から夏の休眠時期までに球根をしっかりと育てます。夏に掘り上げて管理しないと腐ってしまうものもある。

(2)春植え球根 主な種類：ダリア、アマリリス、グラジオラス、アガパンサス、カーラ など
植付け適期は 3 月下旬から 4 月。夏に咲く熱帯地方原産の植物が多い。冬は葉が枯れ休眠するものもあり、冬に寒くなりすぎる地域では、秋に掘り上げ室内で貯蔵します。

3. 球根の選びのポイント

- ・カビが発生していないもの
- ・大きくて重く、張りがあるもの（シワシワしていない）
- ・発根部分がきれいで、皮が剥がれていないもの



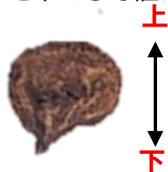
4. 球根植物の植え方

(1) 地植えの場合

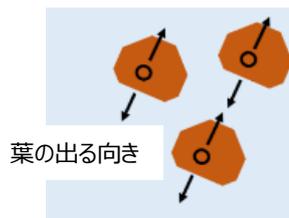
日当たりの良い場所を耕し、球根の 2～3 個分の深さを目安に植えます。間隔も球根 2～3 個分空けます。

～植え方ワンポイント～

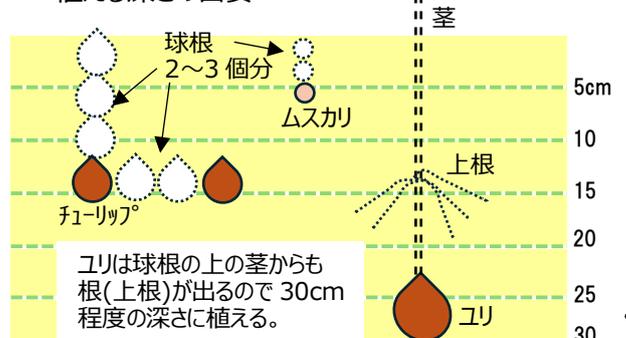
アネモネの球根は植える向きを間違えやすいです。尖った方を下にして植えましょう。



チューリップの球根は向きをそろえると葉の向きがそろい整列して咲きます。



～植える深さの目安～



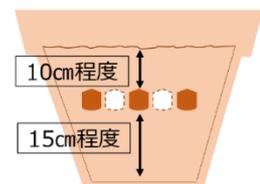
ユリは球根の上の茎からも根(上根)が出るので 30cm 程度の深さに植える。

(2)鉢植えの場合

根が十分に張れるよう、なるべく 25cm 以上は深さのある鉢に植えます。

複数植える場合、球根と球根の間隔は球根 1 個分程度空けます。

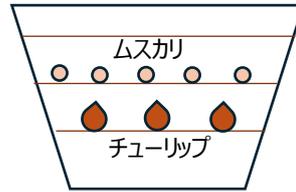
どうしても浅い鉢に植える場合は、球根が隠れる程度の浅植えにすることで、根が張るスペースを確保する。



5. 色々な植え方

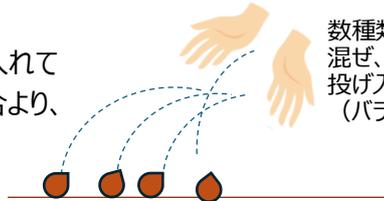
(1)重ね植え (ダブルデッカー)

ダブルデッカーは「二階建てバス」を意味し、開花期や背丈の異なる種類の球根を段差をつけて植えることで長い間花を楽しんだり、ボリュームのある寄せ植えや花壇を作る方法です。大きめのコンテナや花壇に向いています。



(2)投げ植え

様々な種類の球根を混ぜて花壇の中に投げ入れて落ちたところに植えます。列に並べて植えた場合より、ナチュラルな雰囲気仕上がります。



数種類の球根を混ぜ、花壇に投げ入れる (バラまく)



6. 植付け後の管理

植付け後に乾燥しすぎると発芽しなくなったり、発芽後の成長が悪くなります。忘れずに適宜水やりを行います。土に指を差し込んで、第一関節ぐらいまで乾いていたら水やりのタイミングです。

花が終わったら、休眠に入る前の短い期間で次の球根を育てます。花後に肥料を与え、葉が枯れるまでは抜き取ったり、葉を切り落としたりせず、しっかり光合成をさせます。

7. おすすめの球根

丈夫で2、3年は植えたままで楽しめる秋植え球根をご紹介します。花壇や寄せ植えにおすすめです。



ランキユラス・ラックス キンポウゲ科

従来のランキユラスより耐寒性があり、植えたままでも良く育つ。日当たり、水はけ、風通しの良いところを好む。白、ピンク、黄色、橙など、花色豊富で、ツヤのある花びらが特徴的。



スノーフレーク ヒガンバナ科

スズランスイセンの和名のとおり、スズランに似た釣鐘型の愛らしい花を咲かせる。育て方はスイセンと同様、葉は枯れてくるまで残し、球根を育てる。日なたや半日陰でよく育つ。



サキサテリス



リトルビューティー



アルバ コエルレア オクラタ

原種系チューリップ ユリ科

一般的な品種のチューリップよりも小型なものが多いが強健で数年掘り上げなくても花が咲く。球根も小型などで小さな鉢でも楽しめる。

※おすすめの球根植物 (秋植え) を「なごや花の環ネットウェブサイト」⇒「知る」⇒「花壇づくりのコツ」ページでも紹介しています。

★次回11月は『落葉で堆肥づくりについて』をご紹介します。

※資料は個人でのご活用に留めていただけますよう、よろしくお願いします。